

せわやがとカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

南北160km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

3月…新たな目標への出発

十島村教育長 有村 孝一

♪誰かの歌が聞こえる/誰かを励ましている/誰かの笑顔が見える/悲しみの向こう側に/花は花は花は咲く/わたしは何を残しただろう♪

原稿を書いている3月11日は、東日本大震災が発生して5年目の日です。あの日、それぞれの人が、それぞれの場所で日常生活を送っていました。それが、一瞬のうちに壊されてしまいました。音声もなく、ただ津波が押し寄せ、人々の生活を奪っていったテレビの画面を、恐怖の思いで見つめていました。



そして5年前の同じ日、鹿児島では、人々に夢にまで描いた九州新幹線の全面開通を翌日に控え、心わくわく胸をときめかせていた時でもありました。しかし、その夢の実現シーンも、華やかなセレモニーもなく、静かなスタートとなりました。

あの年に生まれた子どもたちも5歳になり、将来の夢を語る年齢になってきました。自分の生まれた年が、未曾有の災害があった年というのを認識し、自覚するのもやがて来ることでしょう。いつかその夢が叶うことを信じて、これからも、前を向いて堂々と生きていってほしいものです。

オーストリアの作曲家、モーツァルトは「夢を見るから、人生は輝く。」と言っています。人は、夢がなければ、前へ進めない。いやむしろ、最初から前などない。必死にもがいて前を向いて生きるために見出したもの。それこそが人が見る夢である。

被災した方々が、夢に向かって再び歩み始めることを祈念するものです。

私たち十島村近海でも、多くの地震が発生しているという現実があります。幸いにして、規模がそれほど大きくはないということで、被害を被ってはいません。しかし、言われているように、将来起こるであろう南海トラフ地震では、鹿児島県に

は、10mを超える津波が押し寄せると言われています。「災害は忘れた頃にやってくる。」この震災を風化させることなく、後世に語り継ぐことこそが、私たちの使命の一つであると思います。

あの震災を、遠い東北の地で起こった出来事とせずに、自分のこととしてとらえ、「自分たちに何ができるのか。」「防災について自分ができることは何だろう。」ということを実際に考える一日としたいものと、気持ちを新たにしました。

♪花は花は花は咲く/いつか生まれる君に/花は花は花は咲く/私は何を残しただろう/花は花は花は咲く/いつか恋する君のために♪

14時46分、黙とうをしながら、この歌が自然と脳裏をめぐり、このようなことが、二度と再び起こらないように祈り、一日も早い完全復興を願うことでした。



シリーズ——十島村
「口之島に来て」
口之島小学校5年

村上 晴菜

私は今、口之島に住んでいる。地図では見えないくらい小さなこの島で、私は決して忘れることのないたくさんの思い出ができた。

口之島に来て、まず勉強時間が増えた。これまで1日10分ほどだった勉強時間が、島に来てから少しずつ増え、今では毎日3時間ほどが当たり前になった。楽しくて自然と勉強している自分に、私自身も驚いている。

初めてのあさの運動、初めてのエイサー、金管バンド、部活動、そして初めての交流学习…。口之島に

来て何回、初めての体験をしただろう。東京での4年間より、口之島での1年間が、思い出がいっぱいある。

私の性格も、ものの見方も、たくさんのことが変わった。時には、涙を流すこともあったけれど、そのたびにみんなが支えてくれた。島には、自分の娘のように接してくれるお母さんや島の方々、頼りになる先生方がいる。



小さな島の生活は、毎日が忘れられない思い出で、毎日大切な事を教えてくれている。

「子ども読書の日」

今年も、4月23日は「子ども読書の日」で、全国的にキャンペーンが展開されます。十島村では、各島の小・中学校に、この日かその前後に、学校独自の読書活動を計画するように呼び掛けています。昨年は、この期間に、読み聞かせやブックトークなど様々な取組がなされました。今年も、また新たな取組がなされますようお願いいたします。

読書週間

毎年のセブンアイランド移動図書もまもなく巡回が始まります。6月からは、県立図書館の移動図書も巡回します。学校やコミセンにある本と同様、積極的に利用してください。

また、学校には、4月23日だけでなく、毎月23日を読書活動の日と定めて取り組みをするようお願いしています。学校だけでなく、各家庭においても、23日を家庭読書の日と決めて、家族で取り組まれてはどうでしょうか。十島村では「本も友だち親子20分間読書運動」も推進しています。是非、学校と地域が一体となって、各島で子ども大人も読書に親しむことが盛んになることを願っています。

十島村では、現在7島中5島で「読書グループ」が設立されています。学校だけでなく各読書グループでも読書の楽しさを知る機会をつくっていただければと思います。また、他の2島でも読書グループができると、読書の輪がさらに広がっていくと思います。

なお、十島村教育委員会では、毎年、県立図書館の「相互貸借制度」を利用して、島民の読みたい希望の本があれば、教育委員会を通じて約1か月間貸出ができます。是非、この制度も御利用ください。



好

シリーズ——島で暮らす
「私の好きなもの」
宝島中学校1年 福島しほな

ひまわり学級の福島しほなです。今年、中学2年生になります。

宝島で好きなものは、学校とお家と友だちみんなです。「行くよー。」

と言ってくれたり、一緒に遊んだりしてくれます。学校で好きなのは、給食です。ご飯とパンが好きです。走ることやサーキットは苦



給食

手ですが、がんばっています。運動会や文化祭が楽しかったです。

十島村の小・中学校からのメッセージ

宝島小・中学校小宝島分校 教頭 上三垣賢一

『井の中の蛙 大海を知らず』これは、私が幼い頃からよく耳にした諺です。幼い頃は、この諺の意味はよくわからなかったものの、他に広い世界があることを知らず、天狗になっている『井の中の蛙』にならないようしようと思いつきながら聞いていました。そんな思いから、親元を離れ、県外の大学に進学して、より広い世界で勉強したり人間関係を築いたりしながら視野を広げ、郷里の教育に貢献したいという夢を抱くようになりました。幸いにも、そのような機会に恵まれ、県外での生活がスタートしましたが、私の稚拙な考えはことごとく崩され、その諺の意味の深さを嫌というほど実感することになりました。当時は、大学の抽象的な概念の世界を理解することが難しかったり、価値観の相違から上手く人間関係を築くことができなかつたりするなど、私は大海の荒波の中で必死にもがき苦しんでいました。

そんなとき、この諺の続きである『されど、井の深さぞ知る』に出会いました。井の中の蛙は、井の中に住んでいるからこそ、大海に住む魚たちが気付かない井の深さを理解しているという内容でした。幼少期から視野を広げるため、『井の中の蛙』にならないように自分を追い込んできた諺でしたが、この諺の続きに出会い、一箇所に腰を据えてより深い知識を得たり追求したりするという逆の発想を持つことの大切さに気付くことができました。

週2便のフェリーしか交通手段がない十島村は、大海に飛び出す機会の少ない環境ではありますが、私たちに厳しさと優しさを教えてくれる大自然と、そこで代々受け継がれてきた知恵や風習、温かい人情など、十島村でしか学ぶことのできない大切なものがたくさんあります。広い世界に目を向け、視野を広げたり識見を高めたりすることはもちろん大切なことですが、身近なところにある十島村ならではの教育を追求し、今、自分にできることや自分にしかできないことに精いっぱい取り組むことも、大切なことではないかと思えます。

教師仲間である「あなた」への私からのメッセージ

十島村には『井の深さを知り、大海を知る蛙』になれる環境があります。子どもたちが、十島村で学んだことを誇りに思い、様々な価値観の荒波が押し寄せてくる大海の中でも、たくましく「島立ち」できるような十島村ならではの教育を、追求していきたいと強く思うことです。